

2012 年度
「卓越した大学院拠点形成支援」プロジェクト
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻
国内学会・研究会発表助成 報告書

アフリカ東南部におけるミオンボ林への熱帯山地雨林の侵入過程
藤田知弘

異なる植生帯への侵入過程 (ex.熱帯雨林種のサバンナへの侵入) における促進作用を検討した研究は少ない。本研究はアフリカ東南部において山地雨林種である *Syzygium guineense* sp. *afromontanum* (フトモモ科: 以下 *Syzygium*) の周辺疎林への侵入過程における促進作用の重要性を検討した。本調査地は大部分がミオンボ林 (マメ科が優占する熱帯疎林) から構成されるが、パッチ状の山地雨林も存在している。本研究ではミオンボ林において *Syzygium* 実生の生存率を 4 マイクロハビタット (*B. floribunda* 下、*U. kirkiana* 下、*F. natalensis* 下、オープンスペース) で比較した。さらに、以上のマイクロハビタットで環境条件を比較した。調査の結果、*F. natalensis* と *B. floribunda* 下にセットした *Syzygium* 生存率は *U. kirkiana* 下とオープンスペースのものよりも有意に高い値を示した。本研究は *F. natalensis* と *B. floribunda* は *Syzygium* のミオンボ林における定着を促進していることを示唆する。